

# 深尾 裕造 教授 略歴

1949年11月 大阪市片町に生まれる

## 【学歴】

1956年4月 京都市立安井小学校入学  
1960年9月 新居浜市立惣開小学校編入  
1962年3月 新居浜市立惣開小学校卒業  
1962年4月 新居浜市立西中学校入学  
1965年3月 新居浜市立西中学校卒業  
1965年4月 私立愛光学園高等学校入学  
1968年3月 私立愛光学園高等学校卒業  
1968年4月 京都大学法学部入学  
1973年3月 同卒業（法学士）  
1973年4月 京都大学大学院法学研究科（基礎法専攻）修士課程入学  
1975年3月 同修了（法学修士）  
1975年4月 京都大学大学院法学研究科（基礎法専攻）博士課程入学  
1978年3月 同単位取得退学  
1979年4月 同再入学  
1980年3月 同退学

## 【職歴】

1978年4月 京都大学助手（法学部）（1979年3月まで）

1980年 4 月	島根大学講師（法文学部・文理学部）
1982年 4 月	島根大学助教授（法文学部・文理学部）
1984年10月	島根大学文理学部助教授併任終了
1985年 3 月	文部省在外研究員（1986年 1 月まで）
1985年 9 月	連合王国バーミンガム大学歴史学科名誉研究員（1986年 8 月まで）
1988年 4 月	島根大学大学院法学研究科担当
1992年 5 月	島根県立農業大学校非常勤講師（9 月まで，以後1998年迄毎年）
1993年 4 月	島根県立総合看護学院非常勤講師（1994年 3 月まで）
1993年 4 月	島根大学教育改革推進委員・全学教育委員会委員・教養教育運営委員会委員（1996年 3 月まで）
1995年10月	島根大学教授（法文学部）（1999年 3 月まで）
1995年10月	島根大学法文学部法学科代表（1996年 9 月まで）
1996年10月	島根大学法文学部法学科長（1997年 9 月まで）
1997年 4 月	島根大学大学院人文社会科学研究科担当（1999年 3 月まで）
1999年 4 月	関西学院大学教授（法学部・大学院法学研究科博士前期課程・後期課程）（2018年 3 月まで）
2006年 8 月	島根大学法文学部嘱託講師（8 月 7 日～10日）
2010年 9 月	関西学院大学学院留学（長期）：ケンブリッジ大学法学部客員研究員（2011年 8 月末迄）
2018年 3 月	関西学院大学（法学部・大学院法学研究科）定年退職
2018年 4 月	関西学院大学客員教員，関西学院大学非常勤講師（法学部・大学院法学研究科）

### 【学会及び社会における活動等】

- 1973年 8 月 民主主義科学者協会法律部会（現在に至る）
- 1975年 4 月 法制史学会会員（現在に至る）
- 1979年11月 法理学研究会（現在に至る）
- 1980年10月 セルデン協会（Selden Society）会員（現在に至る）
- 1982年 6 月 島根大学職員組合書記長（1983年 6 月まで）
- 1990年 1 月 『法律時報』学会回顧，西洋法制史（イギリス・アメリカ）を担当（1992年12月まで）
- 1994年 4 月 法制史学会第42回研究大会（於 島根大学）実行委員会 事務局長（1994年10月まで）
- 1994年 7 月 民主主義科学者協会法律部会島根支部事務局長（1995年 6 月まで）
- 1996年 5 月 島根県弁護士会懲戒委員会委員（1998年 5 月まで）
- 2007年 4 月 法社会学会会員（現在に至る）
- 2008年 5 月 関西学院大学教員組合執行委員長（2009年 5 月まで）
- 2015年 4 月 法制史学会第67回総会（於 関西学院大学）実行委員会 シンポジウム担当（2015年 6 月まで）

## 主 要 論 著

### 【編著書・訳書等】

- J・H・ベーカー『イギリス法史入門 第4版 第Ⅰ部〔総論〕』  
（関西学院大学出版会，2014年 1 月）
- J・H・ベーカー『イギリス法史入門 第4版 第Ⅱ部〔各論〕』  
（関西学院大学出版会，2014年12月）
- 『イングランド法学の形成と展開 コモン・ロー法学史試論』  
法と政治 70 巻 1 号 （2019 年 5 月） 7(7)

(関西学院大学出版会, 2017年 3 月)

『マグナ・カルタの800年 マグナ・カルタ神話論を越えて』

(関西学院大学出版会, 2019年 2 月)

【論文・翻訳等】

「イングランド法とラミズム —Abraham Fraunce, “the Lawyers Logike exemplifying the Practise of Common Law” (1588) のコモン・ロー評価に関して」『京大院生論集』 (創刊五周年記念号) 6号 (1978年)

「チューダー期イングランド法学の形成とその展開過程—コモン・ロー法  
学史試論(一)」 『法学論叢』 105巻 1号 (1979年)

「チューダー期イングランド法学の形成とその展開過程—コモン・ロー法  
学史試論(二)」 『法学論叢』 105巻 3号 (1979年)

「チューダー期イングランド法学の形成とその展開過程—コモン・ロー法  
学史試論(三)」 『法学論叢』 105巻 6号 (1979年)

「チューダー期イングランド法学の形成とその展開過程—コモン・ロー法  
学史試論(四)」 『法学論叢』 106巻 1号 (1979年)

「Fitzherbert の “Graunde Abridgement” (1516) の成立に関する一考察」  
『京大院生論集』 7号 (1979年)

「中世末イングランドにおける判例主義の成立過程—日本中世における判  
例法的発展の問題と関連して—(一)」  
『法学論叢』 107巻 5号 (1980年)

「中世末イングランドにおける判例主義の成立過程—日本中世における判  
例法的発展の問題と関連して—(二)」  
『法学論叢』 108巻 4号 (1981年)

「近代法の形成」島根大学法学研究会編『現代法学入門』

(第一法規, 1982年) 所収

「「イングランド法とルネッサンス」再考—メイトランド「リード講演」  
の理解のために」 『島大法学』 28巻 2号（1984年）

「イングランドにおける学識法曹の形成」 上山安敏編『近代ヨーロッパ法  
社会史』 （ミネルヴァ書房，1987年）所収

〔翻訳〕 梅謙次郎『和解論』 第二部「フランス古法における和解」  
（高浜印刷，1989年）

〔翻訳〕 ロバート・W・ゴードン「法理論の新たな発展動向」 デビッド・  
ケアリズ編『政治としての法—批判法学入門—』

（風行社，1991年）所収

「Artificial Reason 考 —ホップズ—クック論争と近代法学の生誕—（一）」  
『島大法学』 35巻 4号（1992年）

「Artificial Reason 考 —ホップズ—クック論争と近代法学の生誕—（二）」  
『島大法学』 36巻 1号（1992年）

「Artificial Reason 考 —ホップズ—クック論争と近代法学の生誕—（三・  
完）」 『島大法学』 36巻 3号（1992年）

「レスボスの職人の定規—不文法学的立法解釈論の系譜を求めて—（一）」  
『島大法学』 42巻 3号（1998年）

「レスボスの職人の定規—不文法学的立法解釈論の系譜を求めて—（二・  
完）」 『島大法学』 42巻 4号（1999年）

「フォーテスキュとブルータス伝説—忘れられたイングランド國制起源論  
—」 『法と政治』 51巻 1号（2000年）

「19世紀後半イングランド法曹養成制度の展開とその帰結—セルボーン  
卿総合法科学学校設立法案に関連して—」

『法と政治』 55巻 3号（2004年）

「旅する裁判所—巡回陪審裁判制度成立史素描—」 田中きく代，阿河雄二  
郎編『＜道＞と境界域—森と海の社会史—』 （昭和堂，2007年）所収

法と政治 70巻 1号（2019年5月） 9(9)

〔翻訳〕「ヘイル『ロール法要録』序文，若きコモン・ロー法学徒に向けて——八世紀法文献史研究の起点として——」

『法と政治』60巻2号（2009年）

「Demurrer 考—コモン・ロー法学の生れるとき—」

『早稲田法学』85巻3号Ⅱ（2010年）

「コモン・ローとは何か—国民的法共同体の成立と法—」

『法と政治』62巻1号Ⅱ（2011年）

〔翻訳〕ニール・G・ジョーンズ「信託とは何か—歴史的視点から見たユース，信託，そして信任すること」

『立教法学』88号（2013年）

〔翻訳〕「クック「マグナ・カルタ註解」—サー・エドワード・クック『イングランド法学提要 第2部』より—」（松本和洋と共訳）

『法と政治』66巻4号（2016年）

「クック「マグナ・カルタ註解」覚書『法と政治』」67巻1号（2016年）

「G・ジェイコブとイギリス法学史の二つの流れ—『各人が自分自身の弁護士』の成立をめぐる—」中村浩爾，桐山孝信，山本健慈編『社会変革と社会科学—時代と対峙する思想と実践』（昭和堂，2017年）所収  
「独占事件（1602）—その文脈を解きほぐす—」

『法と政治』69巻1号（2018年）

〔資料邦訳紹介〕『旧土地法』

『法と政治』69巻4号（2019年）

### 【書評・紹介・研究報告等】

〔書評〕F・W・メイトランド他著 小山貞夫編訳『イングランド法とルネッサンス』（創文社）

『法制史研究』28号（1979年）

〔書評〕佐々木信「チューダー期イギリス法史学史覚え書き—17世紀イギリス法学史における法の連続性の問題に関連して（1）～（4）」（駒大法学部紀要12号・14号・16号・18号）

『法制史研究』29号（1980年）

10(10) 法と政治 70巻1号（2019年5月）

〔書評〕 小山貞夫「成立期コモン・ロー研究に関する新動向—ファン・ケーネヘム及びミルソム 学説を中心としてのメイトランド学説批判についての覚書」法制史研究29号 『法制史研究』 30号（1981年）

〔書評〕 小山貞夫「陪審制と職権的糾問主義への史的岐路」（『法と法過程』所収），同「刑罰制定法上の略式起訴と職業的略式起訴者—イングランド絶対王政期刑事司法の一局面」（『ヨーロッパ身分制社会の歴史と構造』所収） 『法制史研究』 38号（1989年）

〔紹介〕 A.W.B. SIMPSON, LEGAL THEORY AND LEGAL HISTORY: ESSAYS ON COMMON LAW, The Hambledon Press (London and Ronceverte) 『アメリカ法』 1990-1 号（1990年）

〔学会回顧〕 1990年学会回顧—西洋法制史

『法律時報』 62巻13号（1990年）

〔学会回顧〕 1991年学会回顧—西洋法制史

『法律時報』 63巻13号（1991年）

〔学会回顧〕 1992年学会回顧—西洋法制史

『法律時報』 64巻13号（1992年）

〔書評〕 直江真一「『我はイングランド法を変更することを欲せず』（Nolumus leges Angliae mutare）について」

（法学54巻3号）『法制史研究』 41号（1992年）

〔研究報告〕「法曹の教育——九世紀法学教育の復活と新たな伝統の創造」平成6年度科学研究費補助金 総合研究(A) 研究課題番号05301047 研究成果報告書『帝国主義時代イギリスにおける教育の総合的研究』

（研究代表者：村岡健次）所収（1995年）

〔研究報告〕「コモン・ロー法学とレトリック」平成5年度～平成8年度科学研究費補助金 基盤研究(A)(2) 研究課題番号05401017 研究成果報告書『法とレトリック —その歴史・理論・応用』

(研究代表者：植松秀雄) 所収 (1997年)

〔参考資料〕「島根大学図書館とイギリス史研究入門—イングランド法史  
関係図書を中心に—」 島根大学附属図書館報『松風』58号 (1999年)

〔研究報告〕「1870年代法科大学設立運動と近代イギリス法曹養成制度」  
平成11年度～平成13年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(1) 研究課題番  
号11420003 研究成果報告書『十九・二十世紀五ヵ国 (独・英・日・  
仏・米) における法曹養成と法学教育』

(研究代表者：黒田忠史) 所収 (2002年)

〔書評〕高友希子「裁判資料を通じてみたユースの利用に関する一考察」  
(『ヨーロッパ中世世界の動態像』九州大学出版会), 「15世紀後半から16  
世紀前半イングランドにおける大法官府裁判所の役割」

(『九大法学』89号)『法制史研究』55号 (2006年)

〔研究報告〕「一八世紀イングランド法文献史研究」2007～2009年度科学  
研究費補助金 基盤研究(C) 研究課題番号15930016 (2010年)

〔書評〕小室輝久「一八世紀イングランド少額債権裁判所における紛争解  
決手続」(『明治大学法科大学院論集』6)『法制史研究』60号 (2011年)

〔書評〕小山貞夫 (編著)『英米法律語辞典』

(研究社)『法制史研究』62号 (2013年)

〔講演報告〕「自由の憲章 マグナ・カルタの800年—法律文献の歴史を  
通して見る立憲主義の歴史—」

関西学院大学図書館報『時計台』86号 (2016年)

〔書評〕深貝保則・戒能通弘編『ジェレミー・ベンサム挑戦』

(ナカニシヤ出版)『法制史研究』66号 (2017年)

〔講義概要〕『ヨーロッパ法文化史』(関西学院大学生協書籍部, 2017年)

〔講義概要〕『コモン・ロー法学史』(関西学院大学生協書籍部, 2017年)

〔研究報告〕「マグナ・カルタの800年—その記録と記憶」2015～2017年  
12(12) 法と政治 70巻1号 (2019年5月)



度科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究課題番号 15K03095 (2018年)

【学会・研究会報告等】

「チューダー期英法学形成に関する試論」法制史学会 第29回総会（明治大学，1977年）

「コモン・ロー法学史試論」法理学研究会 第264回例会（同志社大学，1979年）

「イングランド中世における法曹の存在構造—封建領主の所領経営の問題と関連して」法制史学会近畿部会 第205回例会（京都・楽友会館，1981年）

「中世末法曹の実像—B. Bolney と Lincoln's Inn の講師達」法制史学会近畿部会 第267回例会（京都・京大会館，1988年）

「19世紀法学教育改革論への視座を求めて—統治者教育から専門職業人教育へ？」帝国主義期における教育と社会研究会 第4回例会（甲南大学，1992年）

「イングランド法学とレトリック」法とレトリック研究会 第3回例会（岡山大学，1992年）

「近代イギリス法学の伝統形成—グresham大学委員会証言録をとおしてみた世紀末イングランドの法学教育—」法と歴史研究会 第1回例会（仙台・ホテル白萩，1995年）

「ブルータス伝説—失われた文脈」法制史学会近畿部会（京都・聞法会館，1999年）

「チューダー期立法解釈論の展開とクック法学—epieikeia, public good, fiction」法制史学会 第49回研究大会（広島大学，2001年）

「19世紀後半イギリスの法曹養成改革論議とその帰結」法制史学会 第50回研究大会（龍谷大学，2002年）

- 「「愛の日」の行方—イングランド法史研究者からのコメント—」2007年度日本法社会学会学術大会 ミニシンポジウム④日本人は訴訟嫌いだったのか? : 史料からみる日本人の法意識 (新潟大学, 2007年)
- 「ジェイムズ・ギルレイ『巡回陪審裁判開廷時の床屋風景』を読み解く」法制史学会 第60回総会 (名古屋大学, 2008年)
- 「18世紀コモン・ロー法学史探訪—法律書販売カタログを通して見えてくるもの—」法制史学会 第64回総会 (金沢スカイホール, 2012年)
- 「マグナ・カルタの800年—マグナ・カルタ神話論を越えて— シンポジウム趣旨説明」法制史学会 第67回総会 (関西学院大学, 2015年)
- 「自由の憲章 マグナ・カルタの800年—法律文献の歴史を通して見る立憲主義の歴史—」 関西学院大学図書館 第23回学術資料講演会 (関西学院大学図書館ホール, 2015年)
- 「マグナ・カルタ800周年を振り返って」民主主義科学者協会法律部会・基礎法分科会報告 (山中温泉河鹿荘ロイヤルホテル, 2016年春合宿)